

東京未来大学研究紀要 投稿規程

2024.3.27 改正

1. 本誌に筆頭著者として投稿できる者は、本学の専任教職員とする。筆頭著者として投稿できるのは、1編のみである。ただし、依頼原稿についてはこの限りではない。
2. 原稿の内容
 - 1) 原稿は、和文または英文とする。
 - 2) 原稿は未公開のものに限る。他に投稿中の原稿も認められない。
 - 3) 原稿は原著、実践報告、研究ノート等とする。
3. 原稿の体裁
 - 1) 原稿は、原則としてA4サイズ、MS Word（2000以降）で作成し、データファイルで提出する。但し、図、表、写真等については、4に定める。
 - 2) 原稿には要約とキーワード（5語以内）を付す。要約は原則として、和文、英文のどちらかとし、和文400字以内、英文175語以内とする。要約に他の言語を使用する場合は、紀要委員会に検討を依頼することができる。
 - 3) 原稿は1ページあたり、横書きの場合23字×39行、縦書きの場合31字×28行とし、図、表、写真等に要するスペースも含めて、1段組で20ページ以内、2段組で10ページ以内とする。文字サイズを10.5ポイントとし、和文フォントはMS明朝、英文フォントはTimes New Romanとする。1つのデータファイルに、原稿種別、タイトル（和文・英文）、著者名（和文・英文）、要約、キーワード、本文を収める。
 - 4) 本紀要は、横書き2段組、縦書き2段組、モノクロ印刷を原則とするが、特殊な版組が必要である場合は、紀要委員会に検討を依頼することができる。
 - 5) 上記3)に定める上限のページ超過、原稿用紙手書きの原稿、2色以上の印刷、用紙の特殊な指定、及び製版に特別な費用を要する場合については、執筆者の内の本学専任教員が、その費用を個人研究費、あるいはそれに準ずる資金から負担できる範囲に限って認められる。但し、執筆者に本学専任教員を含まない場合については、その扱いを、紀要委員会で決定するものとする。
 - 6) 原稿の形式、引用文献の記載は、各専門分野の慣例に従うこととする。但し、脚注は用いない。
 - 7) 英文タイトル及び英文原稿（要約・本文）の書式の細部については、原則としてAPA（American Psychological Association）論文作成マニュアルに準拠する。

4. 図, 表, 写真等

- 1) 提出する図, 表は, 原則としてMS Word (2000以降), Excel (2000以降) で作成するもの, またはそれらに挿入できる形式のものとし, 個々の原版となるデータファイル及びそれぞれのPDF ファイルを, 原稿と併せて提出する。印刷用版下については, 必要に応じて提出する。
- 2) 写真は一色刷か多色刷りかを指定した上で, 原則としてデジタルデータファイルを提出するほか, 必要に応じて, 適宜, トリミングの指示をする。
- 3) 図, 表, 写真等は本文の欄外に挿入位置を指示するか, あるいは本文中に挿入するものとする。図, 表, 写真等にはそれぞれ図1, 図2, …, 表1, 表2, …のように通し番号をつけ, 必ず縮小率と天地を指定する。
- 4) 図, 表, 写真等の説明は, 必要があれば別紙に記す。
- 5) 提出する写真のデジタルデータファイルは, なるべく解像度の高いものとする。

5. 増刷は原則として, 投稿者の負担とする。

6. 投稿された論文については, すべて査読を行う。紀要委員会が委嘱する査読者の査読結果に基づき, 委員会が掲載の可否を決定する。査読は本学学内の専任教員に限らず, 学外者に依頼する場合がある。いずれの投稿についても原稿の改稿を求めることがある。

7. 英文タイトル及び英文原稿(要約・本文)は, 委員会が依頼する英語母語話者により, 英文の査読を行う。

8. 校正に関しては, 投稿者の責任とする。

9. 提出締め切りおよび発行時期

- 1) 投稿を希望する者は, 紀要委員会が定める期日までに指定の執筆意向調査書を所定の方法で紀要委員会に提出する。
- 2) 原稿は, データファイルで締切日までに紀要委員会に提出する。
- 3) 原則として年1回, 毎年3月末日までに発行する。

10. 本誌に掲載された原稿の著作権は著者に帰属する。但し, 本誌に掲載された原稿は, 原則として本学が他の出版物・媒体で公刊することができる。

以 上

紀 要 委 員 会

委員長	小	林	久	美
委 員	杉	本	雅	彦
	藤	本	昌	樹
	岩	井	真	澄
事 務	野	島	誠	紘

Tokyo Future University Bulletin
2026 Vol.20

Contents

Characteristics of Tendency to Enjoy Eating in Japanese Adults: Associations with Current Dietary Behavior, Past Eating Experiences, and Physical and Psychological Outcomes <i>Tomohiro Suzuki and Kumi Kobayashi</i>	1
Modification and Implementation ‘Japanese Bento-Making’ Related to Dietary Education and Shapes from the Perspective of Thematic Approach <i>Kumi Kobayashi and Nagisa Nakawa</i>	11
Appearance-Related Concerns and Dysmorphic Tendency in Children: Assessing the Internalization of Lookism <i>Minako Ohmura</i>	23
From Recipients of Support to Supporters: Foreign-born Residents Playing an Active Role in the Community <i>Manami Tanaka</i>	31
A Study on the Transformation of “Omusubi Kororin” : An Analysis of Literary Works for Children between 1920 and 1960 <i>Yumiko Sasaki and Kyoko Aizawa</i>	39
Research on Environmental Awareness and Caring Behavior among University Students; Exploring Improvement of Environmental Education Content in Teacher Training Subjects <i>Tetsuya Suzuki, Kumi Kobayashi, Naoto Nakamura and Osamu Shiose</i>	51
An Examination of Factors Related to Marital Satisfaction : Focusing on the Sharing of Household Chores, Daily Stress, and Object Relations <i>Yumiko Iume</i>	59
Loneliness in Adulthood: The Role of Workplace and Non-Workplace Interpersonal : Troubles and the Dual Impact of Club Activity Experiences <i>Etsuko Togo, Megumi, M. Ohashi, and Yumiko Iume</i>	69
Adaptive Coordination and Beliefs of Experienced Art Teachers in Taiwan (Part 1) : Insights from an Interview Survey Based on Artistic Understanding <i>Fumiko Takahashi and Chao I-Tian</i>	81

An Examination of the Educational Effects and Requirements of Seminar Activities Focused on Graduation Theses at “a Marginal University” That Trains Childcare Workers and School Teachers <i>Hideki Ota</i>	 95
A Study of Cheering Squads of High Schools in the Early Postwar Period <i>Motoi Kanatsuka</i>	 109
The Impact of Childhood English Experiences on Affinity for English: Implications for Educational Practice <i>Tomoko Hashimoto</i>	 117
Relations between Yutori Education and Nonattendance at School: Secondary Analysis Based on MEXT Report by ITS <i>Sato Ryotaro</i>	 125

東京未来大学研究紀要 第20号

2026年3月31日 発行

編 集 東京未来大学紀要委員会

発 行 東京未来大学

〒120-0023 東京都足立区千住曙町34番12

電話 03-5813-2525

FAX 03-5813-2529

印 刷 上武印刷株式会社

〒370-0015 群馬県高崎市島野町890-25

電話 027-352-7445